



# 平成30年度 指導方法等の改善計画について【算数】

海田東小 学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率A(本校65%, 県66%, 国63.5%) B(本校50%, 県54%, 国51.5%)		本年度の結果について
<p><b>算数A</b></p> <p>数と計算 数量関係 図形 量と測定</p> <p>● 本校 ● 県 (公立) ● 国 (公立)</p>	<p><b>算数B</b></p> <p>数と計算 数量関係 図形 量と測定</p> <p>● 本校 ● 県 (公立) ● 国 (公立)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数の結果において、A問題は65% (県平均66%), B問題は50%の (県平均54%) 平均正答率となっている。県平均と比べるとA問題は1%, B問題は4%下回っている。どちらも下回っていることから、既習事項の定着が図られているとはいえない。</li> <li>A問題での「量と測定」「図形」の領域の設問について、通過率が70%であった。昨年度から算数的な活動を多く取り入れ、図形感覚や図形の構成要素について考えることで、基本的な知識の定着が図られているといえる。</li> </ul>

重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
<p><b>【課題1】</b> ○式の意味を理解することに課題がある。A設問2, 7の設問の通過率は、それぞれ36.0%, 45.3%であった。特に除法の除数と被除数の関係の理解に課題がある。</p> <p><b>【課題2】</b> ○情報の関連付けと解釈、表現に課題がある。B設問3(1), (2)の設問通過率は、それぞれ27.1%, 16.5%であった。複数のグラフから読み取れる総数や変化に着目して解釈し、言葉や数を用いて表現する力に課題がある。</p>	<p>問題にあう立式を考える際に、数直線や図を用いて、分かっていること、聞かれていることを整理し、式を考えていくように指導する。また、立式した際に、式の意味を説明する活動を取り入れていく。</p> <p>各領域でまとめの学習の際に、複数の情報やグラフと関連付けて考える問題を用意し、読み取れること、解答を導き出すために必要な数値など、見つけ出したことを関連付けて記述式で解答できるように指導していく。また、社会科や総合的な学習の時間などグラフや複数の情報から読み取り、自らまとめていく活動も行い、学習の定着を図っていく。</p>	<p>立式の意味理解をうながす工夫を取り入れた授業づくり</p> <p>情報の関連付けとグラフなどを用いた表現力を付ける授業づくり</p>

<p>平成31年度 全国学力・学習状況調査 数値目標</p> <p>A問題平均正答率を県平均の10%上回る。</p> <p>B問題平均正答率を県平均の5%上回る。</p>
---

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法				6年生全国学力・学習調査(平成30年度)	5・6年生 CRT		5年生全国学力・学習調査(平成30年度)
目標値				A問題 80% B問題 65%	85%		A問題 80% B問題 65%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法				6年生全国学力・学習調査(平成30年度)	5・6年生 CRT		5年生全国学力・学習調査(平成30年度)
目標値				A問題 80% B問題 65%	85%		A問題 80% B問題 65%
実施後数値							

# 平成30年度 指導方法等の改善計画について【理科】

海田東小 学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率(本校64%, 県63%, 国60.3%)	本年度の結果について
<p>理科</p> <p>物質 80 60 40 20 0</p> <p>エネルギー</p> <p>地球</p> <p>生命</p> <p>— 本校 — 県(公立) — 国(公立)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科の結果において、64%(県平均63%)の平均正答率となっている。県の正答率を1ポイント上回っており、学習内容は概ね定着していると言える。</li> <li>授業において、実際の生活と結び付けて自然事象を理解できるように取り組むことで、科学的な言葉や概念の定着を図ることができた。また、「〇〇さんの予想が正しければ、...どのようになると考えられますか」という設問が2つ出題されていたが、いずれも県平均を3ポイント以上上回った。実験や観察における予想と結果との関係を正しく対応させ、認識することができている。</li> <li>実験や観察の結果を分析し、考察することに課題が見られ、どのような課題に対して明らかにしようとしている実験(観察)なのか十分認識できていない児童がいた。</li> </ul>

重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
<p><b>【課題1】</b> ○設問4(4)において、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できるかどうかの正答率は34.5%(県平均40.1%)と5.6ポイント下回っており、実験や観察の結果を分析し考察することに課題がある。</p> <p><b>【課題2】</b> ○設問2(3)において、実験を正しく選択できていても、結果について正しく記述する設問の正答率は23.0%(県平均22.2%)であり、自分の考えをもち、そのことを記述することが課題である。</p>	<p>課題を解決するための流れをさらに意識させて授業を行う。具体的には、「自然事象に対する課題を設定し、課題を解決するための実験(観察)方法を確認し、予想を立てさせる。実験(観察)から得られた結果をもとに、考察する。」という流れをパターンし、思考の流れを定着させる。</p> <p>上記の課題を解決するための流れの中で、自分の考えをもたせ、その考えを記述させることを継続して行う。また、グループでの話し合いを意図的にを行い、自分の考えをもちにくい児童が友達の考えを参考にできるよう手立てを行う。</p>	<p>課題・予想・結果・考察は1つの流れ</p> <p>自分のことばで書いてみよう</p>

平成31年度 全国学力・学習状況調査 数値目標

平均正答率を県平均より5%上回る。

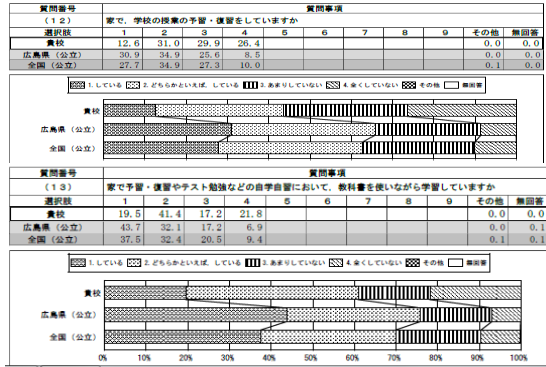
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法				6年生全国学力・学習調査(平成30年度)	5・6年生 CRT		5年生全国学力・学習調査(平成30年度)
目標値				80%	85%		85%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法				6年生全国学力・学習調査(平成30年度)	5・6年生 CRT		5年生全国学力・学習調査(平成30年度)
目標値				80%	85%		85%
実施後数値							

# 平成30年度 指導方法等の改善計画について【質問紙】

海田東小 学校

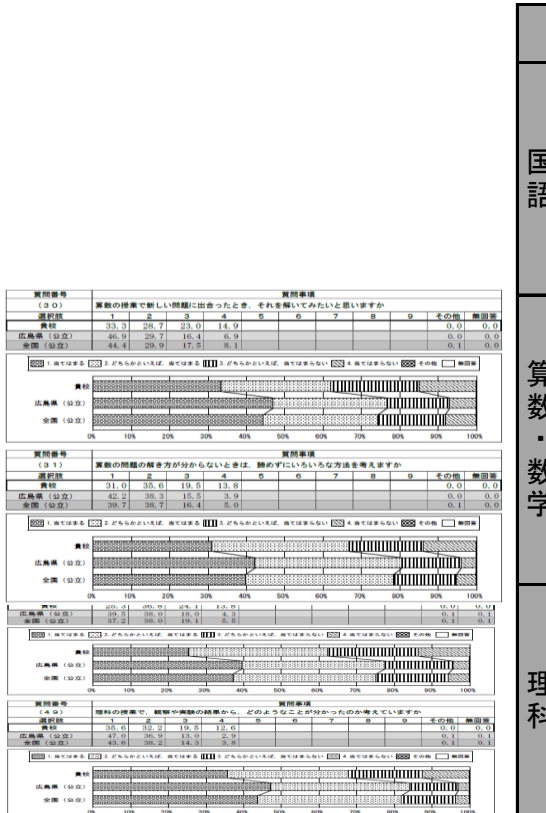
(全国学力・学習状況調査 質問紙)

## (1)生活・学習



児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
<p>・家庭での学習時間が少なく、学校での学習が定着しにくい状況がある。</p> <p>12【肯定的解答:43.6%(全国:62.6%)、否定的解答:46.3%(全国:37.3%)】 13【肯定的解答:60.9%(全国:69.9%)、否定的解答:39.0%(全国:29.9%)】</p>	<p>・学年×10+10分になるよう、家庭学習(宿題)の量や内容について、学年で再検討する。</p>	全	学年の時間の達成率を80%以上にする	生活リズムカレンダー	実施(学期に1回)の際		

## (2)教科



児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び	
国語								
算数・数学	<p>・授業や問題に対して受動的で、解法が分からない時も、自分から積極的に考えて解こうとする意欲が低い。</p> <p>30【肯定的解答:62.0%(全国:74.3%)、否定的解答:37.9%(全国:25.6%)】 31【肯定的解答:66.6%(全国:78.4%)、否定的解答:33.3%(全国:21.4%)】</p>	<p>・教材研究を十分に行い、児童の実態に合った問題との合わせ方や見通しの持たせ方を工夫し、最後まで意欲を継続させる。</p>	全	数学的な思考85%以上にする。	単元末テスト	学期末集計		
理科	<p>・実験や観察をする際、課題発見や予想、実験方法、結果、考察等を自分から考えようとする意欲が低い。</p> <p>48【肯定的解答:62.1%(全国:75.2%)、否定的解答:37.9%(全国:24.6%)】 49【肯定的解答:67.8%(全国:81.8%)、否定的解答:32.1%(全国:18.1%)】</p>	<p>・単元の出合わせ方を工夫し、授業展開を課題解決学習にする。</p>	全	思考・表現の観点を80%以上にする	学期に行ったテストの平均	学期末集計		